



鶏 けいめい 鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

パウロの言葉

「世界が造られたときから、目に見えない神の性質、つまり神の永遠の力と神性は被造物に現われており、これを通して神を知ることができます」

聖書(ローマ書 1章 20節)

牧師 河合裕志

神は目には見えない。神は果しているのかいないのか、見当がつかない。見られるものなら信じられるのだけれど。

これに対してパウロは「これを通して神を知ることができます」よ、と言う。これ、って何？被造物。被造物って何？神によって造られたもの。平たく言えば自然のこと。

聖書の創世記を見ると神による天地創造のことが記されている。天は太陽、月、星々。地は地球、その陸、海、そこに見られる植物、動物、最後に人間も。

これらを通して、これらを観察することによって神は知られるよ、その存在とかがわかってくるよ、とパウロは言う。本当かな、一寸わからない。聖書にある詩編の中にこう歌われている。「天は神の栄光を物語り、大空は御手の業(わざ)を示す」(19編2節)。昼に輝く太陽、夜に輝く月、星の数々。これらを観察することによって、これらの存在の背後に神の存在を感じる。雲の形、色彩に神による芸術作品を覚える。

天が偶然的に存在しているとは思われない。それらを動かしているものがあるのではないか、と考えられて来る。

地球に目を転じてみても、動植物、様々な生物の存在。そのどれ一つをとっても精巧に出来ている。蟻一匹を造ることも人間には容易でないだろう。人間自身についてもその作りの絶妙なこと。脳細胞だけでも140億の細胞から成り立っている。そっくりな人間一体を造るとなるとこれは殆ど不可能。生物は適者生存の法則に従い進化して来たという見方を否定はしないけれど、その大本、根源には神なるものがある、その意志によって万物は存在するようになった、こう見てはいけない？

神がいるのか、いないのか。神はどういう存在か。それは聖書を通して明らかにされるけれど、パウロはその前段階でもある程度は知ることができるよ、とここで言った。いわば自然は第二のバイブルと言うことに。この自然界をよく読めば神の存在、その働きはわかって来るよ、と。

日本人は自然を愛でる。花鳥風月を愛でてやまない。あるいは山や川、木や岩を。日や月を。これは結構なこと。そしてこれら万象の背後に神を、天地の創造者を認めることが出来れば更に結構なのだけれど。

集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

求道者会：日曜日午前9時40分

中高青年会：日曜日礼拝後

お話し会、卓球：水曜日午後1時～7時